

Tokyo Seiei College

東京聖栄大学報



第2号

2006.07

C O N T E N T S

鼎談 明日を開く	平成 17 年度決算報告	12
福澤学長 小林審議役 舩重学部長	平成 18 年度公開講座	13
食品学科の充実を期して 筒井食品学科長	事務組織の改革	14
管理栄養学科の発展を期して 阿左美管理栄養学科長	募金について / 叙勲	15
平成 18 年度入学式	校友会 / 聖栄会 / 短大卒業式	16・17
学生支援センターの発足	幼稚園だより / 募集要項 / オープンキャンパス	18
就職実績		11

鼎談 明日を開く

学風確立のための 意識改革と資質の向上

福澤学長 50年に及ぶ聖徳栄養短期大学の伝統の上に、平成17年4月に東京聖栄大学が開学しましたが、昨年は学内の整備に追われ、1年があっという間に過ぎた感じでした。3月に短期大学生が卒業したので、本年度は教育面を充実し、1日も早く、新大学の学風を確立していきたいというのが、現在の心境です。教職員の中には、まだ短期大学の意識が払拭できていない人も見受けられます。教職員の意識改革と資質の向上に努め、教職員の意識を1本化することが大学の学風を確立する第一条件だと思っています。

小林審議役 今、学長からお話がありましたように、意識改革は教員も事務職員もまったく同じです。今までの短大は、どちらかというと教育に重点が置かれていましたが、4年制大学は教育と研究面が大事になってきます。

それですらなければいけないことは、ビジョンですね。学長が示されたビジョンは、教育面では、教職員の資質の向上です。内容的には、自己点検評価の中に示されています。研究面では、研究体制の構築です。具体的には、研究に関する規程の整備と、研究施設設備の整備充実です。同時に、それに伴う研究費をどうするのかということも考えていかなければいけないだろうと思います。そして、教員が研究の意欲を高め、その成果を教育にフィードバックしていくということです。

舛重学部長 そうですね。両先生がおっしゃるように、大学の2年目というのは教育と研究の充実が大切になります。研究を基礎にした教育がなされないと、学生が大学を面白く思ってくれないということになります。この大学は理科系ですから、実験に裏打ちされた研究にならなければいけない。そうすると、材料費だけでも100万、200万を越します。大学が全部それを持つというわけにはいきませんから、日本学術振興会の科学研究費補助金を取ってくるということになります。しかし、科研費は業績がないと、まずもらえません。そこで、若い先生には、奨励研究がありますので、一生懸命に文献研究したものをしっかりと表現して、科研費を取ることが大切になるだろうと思います。そういう指導をするのも私の役目かなあとと思っています。

専門職業の人材育成のために



理事長・学長
福澤 美喜男

福澤学長 本学は、高等教育機関として、専門職業の人材を育成するということが、すなわち、実務者の養成機関でもあります。実務者養成に何が必要かということ、一番必要なのは基礎的な知識です。それがしっかりとできていれば、あとは応用の問題ということになります。基礎的な知識の身につけていない人というのは、中身のない人間ということになります。これが一番怖いですね。そこで、基礎的な知識を身につける教育を重点的にやるということが大切であると、私は常に思っているわけです。

基礎的なことを覚えようとするとき、学生はノートをとって覚えることが一番です。授業で教育機器やパソコンを使って教えるのも結構ですが、学生には書いて覚えさせるということを基本にするべきだと思います。ところがどうも若い先生の中にはパワーポイントなどを使って格好よく授業をやりたがりますが（笑）、授業の成果については疑問です。こうした機器を使って授業をする場合、その点を考慮して成果の上がる授業を工夫してほしいですね。

小林審議役 昨年、学長が東京聖栄大学の教育理念と教育方針ということの所信表明をされましたね。これを如何にして具現化していくかということが、やっぱり教職員の大きな仕事ではないかと思っています。具体的には、倫理観にあふれた、人間性の高い、責任の



審議役
小林 壯一

ある人間をつくらなければいけないということです。そのためには、専門科目と一般教養の融合を如何にしたらいいのかということになります。しっかりした教養科目の実施をさらに進めていく必要があるかと思っています。

学長が示された本学の教育方針にある職業教育として、特に管理栄養士を養成する課程では、まず国家試験に受からなければしょうがないということになります。国家試験の合格率を高めるためにはどうしたらいいかということは、十分検討され実行されています。しかし、管理栄養士そのものが、やはり倫理観にあふれた教養豊かな思いやりのある人でなければいけないだろうと思います。



学部長
舩重 正一

舩重学部長 私も国家試験の合格に必死になるのはいいのですが、あまりそれに偏りますと、国家試験の

予備校化みたいなことになるとと思います。両先生方がおっしゃったように、基礎的な知識を持った、人間味あふれる学生をどうやって在学中につくるかということだと思っています。

一方、食品学科は、化学をしっかりと勉強して、それに対処できないといけません。われわれの若い頃は、天然物化学というのが非常に難しかった。今は、その天然物がもっとも多くなってきています。そして行き着くところがサプリメントです。最近、イソフラボンを摂り過ぎてはいけないというふうになりました。今まで摂らせようとしたものが、摂りすぎてはいけないということになりました。

そこで、先生方がおっしゃった、倫理観を持った実務者を育てなければいけないということになります。どこで倫理観を発揮できるのかということが、非常に大事なのだらうと思います。今までの倫理というのは、実験上のことだけが議論されてきたような気がします。動物を使う時はこうしなければいけないとか、人を使う場合は倫理委員会を通さなければ駄目だとかいうことでした。現在は、そういうことではなくて、ほんとうに人にそれが必要なのかということから考えることができる学生を育てなければならないのだと思っています。

手づくりの大学

福澤学長 今、両先生が言ったことは、教養科目を教える先生方と専門科目を教える先生方が、ちゃんとコンタクトをとって教育を行えば良いということです。たとえば、管理栄養士は本来的に教養がなければ、管理栄養士として使えません。要するに、専門家として、裾野が広い人間を如何につくり上げるかだと思います。

教養というのは、物事を考える基準をどこに置くかということをおぼろげにしておけば良いということです。その他のことは、必然的にその人によって、できあがってくるのではないのでしょうか。そこで、その人の考え方の基準をどこに置かせるかということをおぼろげに身につけさせるべきではないかと思っています。

そのためには、基礎学力というのはどうしても必要なものですね。ただし、基礎学力を付けるために、暗記させるだけではいけません。ものを考えなくていいということになるからです。これではやはり教育にならないですね。

例えば、北陸のある大学で、入学時の偏差値をぐんと高めて卒業させているところがあります。そういう教育をすることが重要だと思うのです。要するに、本



学で自分の力を高めていきたいという意欲がある学生の能力を引き出す教育でなければいけないということです。人間の潜在能力をいかに引き出すかということです。これが重要なことだと思います。そのために、本学の先生方がご自身のエキスを注ぎ込むことです。そうすることによって、学生は伸びていくと思います。たまたま規模が小さい学校であるがゆえに、先生方と学生の接触が非常に密になります。だからこそ、先生方の質がいいか悪いか、学校は問われるわけです。私は、本学の卒業生が、あの大学を出て良かったと言わせたいのです。そうすれば、きちっとした大学として伸びていくと思っています。

言葉を変えれば、石の積み重ねです。それをやっていけば、学生数が減ってくるかということはないのです。やはり先生方が裸になって学生たちと付き合えば、大学は良くなります。私も実際、そういう経験を沢山してきましたから、それが言えるのです。どんなに有名な大学となっても、先生方がつまらなかったら、学生は来なくなります。

小林審議役 学長は教育方針の中で、入るのはやさしいけども、出るのは難しい大学ということを書いておりますね。私も、まさに同感です。結局、それは社会へ出すために、実力を持った、社会に通用する卒業生を出すという信念のもとでなされると思います。それにはまず何といっても、今、お話があったように先生方が、使命感や情熱をもって学生の教育に当たると

ということがないと駄目だと思います。

東京聖栄大学は、粒の揃った優秀な学生が卒業していくことの繰り返しを得れば社会的な評価に繋がってきます。東京聖栄大学に行けば力も付くし、就職も心配ないよという形にならないといけないと思います。これが本学の理想ではないかと思いますね。そのためには、まだこれから施設の拡充とかいろいろなしていかなければならない点はあると思いますが、やはりその学校にいる教職員の姿勢が一番大切です。

舛重学部長 いま先生方が云われたことは教育機能をもつ大学にとって極めて大事なことだと思います。大学教育の最終目標は高い学問教養を身につけた人格高潔な人物を社会に送り出すことにありますが、これは云うに易く達成するのは困難な道でありましょう。私がすぐに思い起こすのは、吉田松陰の松下村塾です。山口県萩の片田舎に、今も残っていますが、小さな小屋としかいえない八畳間が2つ程の塾で、木戸孝允、前原一誠、高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤博文などなど、維新大回転の原動力となった逸材が育てられています。松陰についての具体的な研究はしていませんが、マンモス大学の多い今日、本学は規模において松下村塾に擬することができるのではないかと思います。

教育の成果は、学生と教員がどれだけの時間、どれだけの回数接触したかで計れると考えられます。やがて研究室に配分され、日々生活を共にするようになると、更に効果が期待されます。さいわい、本学の経営

陣には拡大再生産式のお考えはないようですので、期待がもてます。しかし、その分教職員の責任は重いことになります。

開かれた大学

小林審議役 本学は短期大学時代から生涯学習センターを作り、公開講座を実施してきました。このことで地元での知名度が高くなってきました。そして、4年制大学になって、地元の期待がさらに増しています。それは、地元の産業の育成ということです。たとえば、大学と共同でベンチャービジネスを起業するとか、地元企業との共同研究ということです。本学は今、4年制大学として地元とのコミュニケーションを深めていくということが求められています。そのためにはやはり、教職員の社会貢献についての認識が必要になりますね。

それから、本学からの情報提供の必要性も増しています。本学は学内LANの構築を3カ年計画で進めてきました。今年は2年目に入っています。学内LANの配線が完全に構築されました。これからは、そのLANを使っていろんな研究や教育や事務処理に役立つ時期に入ってきています。このことを地域の立場に立って言えば、e-ラーニングの実施ということにもなります。大学がインターネットを通じて情報の発信地になるわけです。

福澤学長 確か葛飾区からの依頼であったと思いますが、地元の小学校や中学校の栄養士の方々の教育をやってもらいたいということが起きています。それも単発ではなくて、ある程度、回数を重ねて実施してほしいということです。私は、依頼先とチームを組んで、この先生はこの分野、この先生はこの分野ということで実施して、大学が全体的に地域に貢献したらいいと思っています。

それから今、話題になっているのが生活習慣病ですね。このための食事指導というようなことも、大学が発信基地となって地域に発信していったらいいと考えています。地域には、保健所や保健センターがあるからいいということではなく、大学が地域をどんどん取り込んでいったらいい。生活習慣病について言えば、運動と食事をどう組み合わせたらいいのかというようなことをシリーズものにして行うべきではないかということです。

舩重学部長 大学の社会的責任とか存在意義といったことは、私の学生の頃からも議論されていたことです。

60年安保闘争などで騒がれていたころです。政治に関心があると無いとに関わらず、全ての学生が社会の動きに注目していました。そして、ほとんどの学生は貧乏でした。ですから、皆生活のためにアルバイトをやりました。私の友達にも1日コッペパン1つで過ごしていた者もいました。その頃と比べると今の学生諸君は恵まれていると思うんです。そこでの諸君に余暇を有意義に使いなさいと云いたいのです。社会に飛び込んで実体験を積むことも良いでしょう。また大学が地域社会に門戸を開いて交流することも大切だと思います。本学の食品学科にはインターンシップ制があり、必須科目に加えられております。これは大変良い制度だと思います。本学のノウハウを外部にオープンにすると同時に、学生も訓練と体験の場として受け入れて頂く仕組みを、積極的に創り上げていくことが必要であろうと考えます。

多様な学生の受け入れ

福澤学長 最後に、本学が求める学生について触れたと思います。一言でいうと学ぶ意欲のある学生です。管理栄養学科ならば、国家試験を合格して管理栄養士に絶対なるぞという決意を持った学生です。食品学科ならば、食のスペシャリストになるぞという決意を持った学生です。こうした意欲がある、多様な学生を受け入れたいですね。たとえば、勉強一途という学生の中に、どちらかというと社会的適応能力がない人がいます。食品学科では、勉強一途というよりも社会的適応能力のある学生を入学させて、意欲的に学ばせて、一般企業に送り出すことが良いと考えています。

それから、両学科に共通していえることは、日本語力のある学生ですね。これは、最低限は確保しておかなければいけないことだと思います。管理栄養学科でも食品学科でも、日本語というのは重要なことです。大学の単位を取れるとか、取れないとかいうのは、日本語力に関わりがあります。言葉に関して言えば、次に英語とかの第二外国語ということになります。今や食に関することは、世界が相手です。外国語の大切さが増加しています。それから、課外活動をがんばってきた人ですね。たとえば、囲碁部とか将棋部とかチェス部といったような部活の経験者でもかまいません。こうした考える力というか、知的作業を伴う活動も大切なことです。囲碁や将棋は、社会に出てからの上司や同僚との関係づくりにも役立ちます。学業以外の教養の範囲の中で、こうした知的な遊びも大学生活に取り入れてほしいと思っています。



食品学科長
筒井 知己

食品学科の充実を期して

今日食の世界では、健康志向の下、伝統的な和食や機能性食品等に対する関心が高まっている。一方私達が日常利用する食品素材には、残留農薬、BSE、食品の産地表示などの問題がある。私達が、食生活を安心して送るためには、食品素材の知識、成分、食品の加工、品質管理について十分な知識をもつ必要がある。実際、現在販売されている加工食品には、HACCP システムの下、高度に衛生管理された品質の製品もある。これらの製品は、原料の段階から、衛生管理を徹底し、加工の段階での微生物汚染を排除し、殺菌、包装により十分安心できる品質となっている。しかしこのシステムを適用させるためには、食品素材について深い知識をもち、加工、品質管理のできる人材が必要である。また加工食品の機能性をさらに高めるためには、食品機能についての知識も必要である。食品

学科では、このような一連の問題、システムに対応できる食のスペシャリストの養成を目指している。

厚生労働省では、輸入食品の品質をチェックするために、全国に食品衛生監視員を配置している。しかし、この中のかなりの人々が今後数年の内に定年を迎え退職していくといわれている。すなわち官庁や企業で、食品の品質を管理できる人材が今後益々必要とされるようになる。

食品学科では、1、2年次のカリキュラムに、食品学総論（食品の主要成分）、食品学各論（食品素材の種類と特徴）、食品加工学、食品分析学等を配置し、3年次に、機器分析実験、食品加工実習、インターンシップを設けている。本学科は、インターンシップで、企業内でのマナー、日常の業務の多様さ、困難等を学ばせ、大学での勉強をさらに実のあるものにするを企図している。

フィールド研修



食品学科のカリキュラムの特徴は、学内での勉強の他に、農産物が生産、加工、販売をされている実社会の現状を勉強する点である。このために、1年次にフィールド研修を実施し、農産物の収穫、選別等の現状を学ぶとともに、日本の農業がおかれている問題点なども学んでいる。また農産物を加工している工場を見学し、その製造工程、品質管理等を学ぶ。

海外研修



現在の日本人の食生活では、その消費する食品素材の多くを輸入食品に依存している。そこで食品学科では、希望者を対象に、海外研修を実施し、海外での農産物の生産や加工の状況、市場の状況も見学させる。本年は、9月にヨーロッパ研修（イタリアの農場と農産加工の見学、ピザ工房、博物館の見学、フランスの市場とチーズ工場の見学等）を実施する。この研修を通じて、地球規模で流通している農産物、農産加工品の現状を見聞し理解を深めることができるようになっている。

6号館完成 (食品学科機器分析室、研究室)

食品学科は、食品衛生管理者、食品衛生監視員養成を目的としてそのカリキュラムに、化学、生物有機化学、生化学、食品学、食品衛生学等の講義科目と、基礎化学実験、食品学実験、機器分析実験等の実習科目を設置している。将来食品の製造や加工に従事し、その衛生管理や品質管理を徹底するためには、各種機器を使った分析技術を身につけることが必須とされている。本学6号館

は、実験実習室の整備、より高度な分析機器の導入、学生の厚生設備の充実を目指し、学科の教育目標達成の一助として建設され、その施設の中には、ガスクロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー質量分析計、液体クロマトグラフィー、原子吸光分析計、赤外分光分析計、アミノ酸アナライザー等が設置されている。また別に電子顕微鏡室も設置され、食品素材や加工食品の組織を観察できるようになっている。学生は、実習の中で食品中の添加物や重金属を分析し、機器の原理や操作法を修得できる。



6号館に食品学科の研究棟を新たに設置しました



食品の匂い成分の分離・同定に用いられるガスクロマトグラフィー質量分析計



食品中のアミノ酸組成を定量できるアミノ酸アナライザー



食品添加物などの分析に用いられるガスクロマトグラフィー



微細構造を立体的に観察できる走査型電子顕微鏡



管理栄養学科長
阿左美 章治

管理栄養学科の発展を期して

管理栄養士にふさわしい人材の育成を目指し、平成17年度にスタートした管理栄養学科は、この4月に新生を迎え、1・2年生の在学を機に徐々に4年制大学としての体制を整えつつある。

本学の管理栄養士養成教育は、入学から卒業、就職まで首尾一貫して行うが、現時点では教職員、学生が一丸となって、目的達成に向けての土台作りをしている段階である。土台作りの重要性は、この3月に初めて実施された新カリキュラム対応の管理栄養士国家試験の出題内容からも明らかである。それは、日々学生と向き合う中で感じることもである。すなわち、基礎学力の底上げの必要性である。

学生の「理科への苦手意識」、特に化学に対するそれは、人の健康増進と疾病予防、病気治療などの分野で働くことが期待される管理栄養士にとっては、改善の必要なものである。化学は、医学や生物学と共通の栄養科学を基盤とする知識修得の裏づけになっていなければならない。つまり、基

礎力を1年次の段階で十分に身に付けておく必要がある。また、臨床栄養分野での医療チームで成果をあげるには、基礎医学の知識や英語力も必要になる。

そこで、今年度はこれまで1年次の入学直後に実施していた「化学」や「国語」の基礎力の確認を、「生物」や「英語」も対象に加えた。さらに、化学で実施していた補習授業を化学以外にも拡充し、「フレッシュマン実力向上講座」として1年前期に実施している。特に1・2年次に修めるべき専門基礎教科の理解の重要さは、後に学ぶ専門教科や応用教科、さらには国家試験対策としても有効かつ不可欠なものであることを、基礎学力不足が認められる学生のみならず、全学生に認識させたいと考えている。

本学科は、高度で専門的な知識や技術を身につけ、かつ各々の職場において即戦力となる実力を備え、さらには管理栄養士国家試験に合格できる学生の育成を目指している。これに対して、1年次

施設設備



治療や看護を要する人々への栄養アセスメントを学ぶ臨床栄養学実習室



栄養生化学実験1(ダグラスバッグに呼気を集めてエネルギー消費を求め実験)

臨地実習

臨地実習は、管理栄養士が病院や事業所など実践の場で栄養ケアを行うのに必要な、「専門知識と技術の統合をはかる」ための実践能力を高めるうえで、不可欠な訓練である。臨地実習先は「臨床栄養学実習」や「公衆栄養学実習」、「給食経営管理論実習」、「給食の運営実習」など複数わたることから、実習の事前準備と指導、実習期間中の巡回指導、事後の指導を綿密に一体化してすすめる必要がある。そのために本学では臨地実習センターを設置している。センターの担当教員を中心に、全教職員が学生の指導に当たること

ができるように支援体制を組んでいる。特に大学と実習施設との連携を強化するために、調整役として必要に応じた専任職員を常駐させ、手厚い学生支援をする予定である。臨地実習においては、実習の目的や目標、実習に対する心構えや持つべき資質を学生に十分理解させることが重要である。実習に向うにふさわしい学生になるために、自分が今、何をすべきかを認識させることである。そのために、3年前期から実習の準備がすでに始まっていることを学生に周知させ、臨地実習の成果が学生自身の力となるような指導をしていく。

管理栄養士国家試験対策

新カリキュラムに基づいた管理栄養士国家試験がこの3月に実施された。管理栄養学科では4月中旬に国家試験問題を学生全員に配布し、試験情報を提供した。

管理栄養士国家試験対策はすでに1年次よりスタートしているが、これからの対策の一部を予定として示す。

○管理栄養士への意識啓発

授業、ガイダンス等を通じ管理栄養士に関する種々の情報を学生に提供し、管理栄養士を目指すことの意義を惹起させ、学生自身に常に確認し続けさせる。

○平常授業、対策授業、実力認定試験、模擬試験

1・2年次：開講の専門基礎教科の完全な理解が専門教

科修得、国家試験合格の必須条件であることを認識させる。

2年次以降：定期試験のほかに実力認定試験、模擬試験を行い必要に応じて補習授業、集中講義、対策授業を放課後や休暇を利用して実施する。

3年次：合格のための基礎力の完成。

4年次：個人学習計画を立案し、不得意分野の克服、合格への備えを完全なものにする。

○講演会

給食施設従事者、国家試験合格者等による講演会の実施。

○就学環境の基盤整備

図書館開館時間の延長と国家試験対策コーナー設置、OA機器および情報検索機器類の充実など。

をみた限りでは期待半分、不安半分といったところである。しかし、本年の4月から、2年生が中心となって自主的に設立した「国家試験のための勉強会や研究会」などは、学生の中に管理栄養士国家資格を取得したいという気運が形となって生まれたものと考えられ、喜ばしい限りである。

強会や研究会」などは、学生の中に管理栄養士国家資格を取得したいという気運が形となって生まれたものと考えられ、喜ばしい限りである。



栄養生化学実験Ⅱ（生体成分の定量実験）



給食経営管理実習（回転釜を用いての大量調理の様子）

平成18年度入学式



平成18年度入学式は去る4月5日（水）、わたなべ記念館で挙行された。今年は季節の進行が早く桜も葉桜にちかく、当日は生憎雨天での挙行ではあったが、式場内は入学式に相応しい清楚な服装に身を包み、やや緊張しつつも希望に胸ふくらませた新入生、保護者などで埋めつくされ、また多数の来賓の臨席のもと、厳かな雰囲気の中に、式は午前10時30分開会。本年度の新入生は、管理栄養学科87名、食品学科75名、総計162名であり、みな期待に眼を輝かせて、式に臨んでいた。

式は福澤美喜男学長の式辞で始まり、今後の教育方針の大綱と新入生が学生生活を送る上での心構えについて教示された。その中で新入生に対し次のように語りかけた。「今、飽食の時代とされていますが、その豊かな食生活の裏側には、栄養バランスの偏りがある食事を摂ることによる肥満や生活習慣病の増加、家庭での食事形態の変化による伝統ある食習慣や食べ物に対する感謝の心の喪失、子供の心の成長に食生活が与える影響、若者の朝食欠食率の増加や極端な痩身志向による体力の低下、食料の自給率の低下と食材の大量廃棄、輸入食品の増加と食の安全性についての様々な問題があります。あなた方はこうした諸問題についても、これからはよりいっそうの関心を持ち、食生活のあり方についてもしっかり学び、社会に役立てられるようにしてください。」と。

式はこの後、新入生代表の宣誓、ご来賓の祝辞と続いた。最後に本校校歌が高らかに斉唱され平成18年度入学式は滞りなく終了した。

学生支援センターの発足

本年4月の事務機構改革により『学生支援センター』が発足しました。学生支援センターは「学生生活支援」「就職支援」から「入試広報業務」までの幅広い学生支援を行っていきます。入試入学の相談から始まり、入

学後4年間の学生生活を明るく楽しく充実したものとし、希望の進路・就職が決定できるようセンタースタッフ全員が支援していきますので、気軽に相談に来てください。

キャリアサポート・就職支援日程

年次計画

1年次		2年次		3年次		4年次	
4月	入学時ガイダンス	4月	新年度ガイダンス 基礎学力向上講座	4月	新年度ガイダンス 進路登録票の提出 就職ハンドブック	4月	新年度ガイダンス
5月		5月	進路ガイダンス 基礎学力向上講座	5月	基礎学力模範試験2・適性試験	5月	就職ガイダンス
6月		6月	基礎学力向上講座	6月	就職ガイダンス・個人面接 エントリーシート対策	6月	就職ガイダンス
7月	進路ガイダンス	7月	進路ガイダンス 基礎学力向上講座	7月	就職ガイダンス・個人面接	7月	就職ガイダンス
8月		8月		8月		8月	内定者のフォローアップ
9月	進路ハンドブック	9月		9月		9月	
10月	基礎学力模範試験1	10月	進路ガイダンス 基礎学力向上講座	10月	就職ガイダンス・SPI模範試験	10月	
11月	基礎学力向上講座	11月	基礎学力向上講座	11月		11月	
12月	進路ガイダンス 基礎学力向上講座	12月	進路ガイダンス 基礎学力向上講座	12月	就職ガイダンス	12月	
1月	基礎学力向上講座	1月		1月	就職ガイダンス・内定者報告会	1月	
2月	進路ガイダンス 基礎学力向上講座	2月	進路ガイダンス	2月	就職ガイダンス	2月	
3月		3月		3月		3月	

就職対策講座

将来の就職活動を円滑に行うためにも、現場の方の話を聞くことはとても参考になります。本学では学生全員を対象に実施しています。今後も、外部講師の招聘を予定しています。



講座内容と講師
「食の安全について」
内閣府食品安全委員会委員
東京農業大学教授 本間 清一氏

カウンセリングルーム

カウンセリングルームでは2人のスタッフが、学生の皆さんのさまざまな相談に対応している。大学という新しい環境への適応から、自分自身の過去の問題、そしてよりよく学生生活を過ごすための未来に対する問題などの相談に対応している。保健室や学生支援センター・学務課とも連携しながら学生の皆さんをしっかりサポートしている。

カウンセリングルーム：5号館4階

開室時間：月～金 9：00～17：00

土 9：00～14：00

保健室

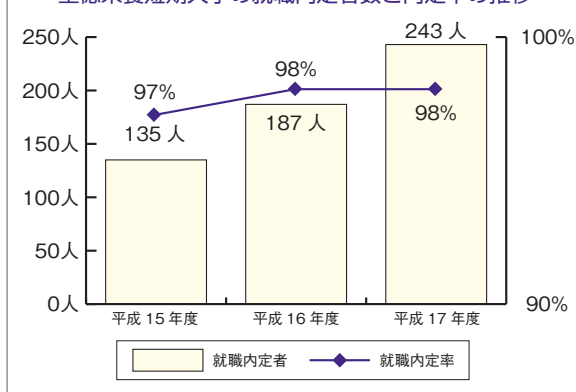
ベッドと簡単な診察室を備えた部屋に保健師1名が常時勤務し、校医も随時学生の健康診断と健康相談、応急手当等を行っている。

- 1) 健康診断：4月に産業医の応援をえて実施。診断に基づき肥満や生活習慣病の健康相談を行っている。
- 2) 学生の保健室利用状況：軽い外傷や感昌、頭痛、腹痛などの応急処置が最も多く、種々の健康相談に応じ、また、学生教育研究災害傷害保険の手続も行っている。

聖徳栄養短期大学就職実績

聖徳栄養短期大学の今年3月卒業生の就職状況は、就職希望者247名に対し決定者243名で就職決定率は98%であった。栄養士職には150名が就職し過去最高の記録となり、短大最後の卒業生の就職状況は明るいものになった。四年制大学の学生の就職活動期には、各企業などで聖徳栄養短大卒の多くの先輩が活躍している。これらの企業は、四年制大学の学生にとっても重要な就職実績先として活用できる。今後、学生支援センターでは、多くの短大卒業生のネットワークを就職活動に利用できるようにする予定である。

聖徳栄養短期大学の就職内定者数と内定率の推移



トピックス

前年度短大

就職内定率 **98%**

<今までの就職実績先の一部>

東京大学医学部附属病院好仁会
 千葉大学医学部附属病院同仁会
 木場病院
 千葉中央病院
 行徳総合病院
 社会福祉法人愛の泉
 社会福祉法人江東園
 社会福祉法人慶美会
 社会福祉法人愛の友協会
 特養ホームワールドナーシングホーム
 アンデルセン保育園
 千葉寺保育園
 エームサービス
 シダックスフードサービス
 エム・ティー・フード
 ジャパンウェルネス

東洋食品
 ニッコトラスト
 日清医療食品
 日本給食サービス
 富士産業
 グリーンハウス
 日京クリエイト
 東京ケータリング
 メフォス
 グランディック
 ベストフードサービス
 雪印乳業
 アサヒビール
 ヤクルト本社
 ニチレイ
 キュービー
 キュービー醸造
 日本化工食品
 日本フーズデリカ
 東京めいらく
 山崎製パン
 ポーソーハチミツ
 富士薬品
 くすりの福太郎

戸田建設
 千葉トヨペット
 東京東信用金庫
 小池イマテクス
 丸井グループ
 花王化粧品販売
 ナチュラルローソン
 ファイブフォックス
 サマンサタバサジャパンリミテッド
 ふらんす菓子クローバー
 山本海苔店
 サンエー・インターナショナル
 チムニー
 ルコント
 麦の穂
 イクスピアリ
 リゾートトラスト
 東日本全日空商事

●公務員
 埼玉県
 足立区
 千葉県

平成17年度決算報告

学校法人オリムピア学園

平成17年度決算に基づく本学園の財務状況は別表の通りである。

1. 資金収支計算書

当年度の資金収入は15億5000万円となり、前年度

資金収支計算書 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで) (単位 円)

	科 目		決 算	
収入の部	学生生徒等納付金収入		794,066,600	
	手数料収入		21,272,560	
	寄付金収入		10,225,934	
	補助金収入		91,654,466	
	資産運用収入		3,358,889	
	資産売却収入		90,050,000	
	事業収入		16,519,895	
	雑収入		131,496,981	
	借入金等収入		220,000,000	
	前受金収入		338,386,565	
	その他の収入		290,197,367	
	資金収入調整勘定		△457,079,115	
	前年度繰越支払資金		2,372,857,717	
収入の部合計		3,923,007,859		
支出の部	人件費支出		894,552,787	
	教育研究経費支出		203,255,043	
	管理経費支出		141,285,849	
	借入金等利息支出		1,833,534	
	施設関係支出		379,294,645	
	設備関係支出		56,121,714	
	資産運用支出		10,052,045	
	その他の支出		253,589,933	
	[予備費]			
	資金支出調整勘定		△71,344,535	
	次年度繰越支払資金		2,054,366,844	
	支出の部合計		3,923,007,859	

消費収支計算書 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで) (単位 円)

	科 目		決 算	
消費収入の部	学生生徒等納付金		794,066,600	
	手数料		21,272,560	
	寄付金		16,217,853	
	補助金		91,654,466	
	資産運用収入		3,358,889	
	資産売却差額		49,999	
	事業収入		16,633,162	
	雑収入		131,499,709	
	帰属収入合計		1,074,753,238	
	基本金組入額合計		△89,297,860	
消費収入の部合計		985,455,378		
消費支出の部	人件費		848,866,187	
	教育研究経費		363,950,523	
	管理経費		165,905,718	
	借入金等利息		1,833,534	
	資産処分差額		1,985,988	
	徴収不能額		2,229,250	
	[予備費]			
	消費支出の部合計		1,384,771,200	
	当年度消費支出超過額		399,315,822	
	前年度繰越消費支出超過額		86,643,375	
翌年度繰越消費支出超過額		485,959,197		

繰越支払資金23億7300万円を加えて収入の部合計は39億2300万円である。これに対して、当年度の資金支出は18億6900万円であったので3億1900万円の支出超過となったため次年度繰越支払資金は前年度末比3億1900万円の減の20億5400万円となった。

支出の部合計は、39億2300万円である。

2. 消費収支計算書

消費収入合計額は、帰属収入10億7500万円から基本金組入額8900万円を控除した9億8600万円である。これに対して、消費支出は13億8500万円であった。この結果、当年度消費支出超過額は3億9900万円となった。前年度繰越消費支出超過額が8700万円あったので、翌年度繰越消費支出超過額は4億8600万円計上することになった。

3. 貸借対照表

17年度末の資産の部合計額は、101億6100万円であり、前年度末比1億3400万円の減となった。また、負債の部合計額は、前年度比1億7600万円増の10億2800万円である。

基本金の部合計は、前年度末比8900万円増の96億1900万円となった。

消費収支差額の部は、翌年度繰越消費支出超過額が4億8600万円となった。

負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計額は、前年度末比1億3400万円減の101億6100万円となった。

貸借対照表 (18年3月31日)

(単位 円)

資 産 の 部		
科 目		本年度末
固 定 資 産		7,630,108,549
流 動 資 産		2,531,068,701
資 産 の 部 合 計		10,161,177,250
負 債 の 部		
科 目		本年度末
固 定 負 債		586,189,758
流 動 負 債		441,529,682
負 債 の 部 合 計		1,027,719,440
基 本 金 の 部		
科 目		本年度末
第 1 号 基 本 金		8,701,279,772
第 2 号 基 本 金		788,137,235
第 4 号 基 本 金		130,000,000
基 本 金 の 部 合 計		9,619,417,007
消 費 収 支 差 額 の 部		
科 目		本年度末
翌年度繰越消費支出超過額		485,959,197
消費収支差額の部合計		485,959,197
科 目		本年度末
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計		10,161,177,250

平成18年度公開講座

平成17年度の公開講座は、642名（延べ数）の方から応募いただきました。特に講座運営の新たな試みとして「カウンセリング入門講座」では、一般受講生に加え両学科の学生が参加し、とても和やかな雰囲気です。一般受講者の方々からは学生に対する高い評価を受け、学生にとっても貴重な体験が出来たようです。その他の講座においても、本学の特色である「食と栄養の学び」

を通して地域振興の役割を果たすことができました。

平成18年度の公開講座は、これまで検討中であったレギュラー講座を開講する他に、「親子体験講座」「味覚を確かめる講座」等、6講座を予定しております。

さらに、併設の聖徳調理師専門学校の公開講座を含めると11講座が開講されます。今年度の公開講座の内容は次の通りです。

平成18年度講座日程

大学1日講座

講座番号	講座名・テーマ	実施日（全て土曜日）	定員	対象
NO.1	小学生対象親子教室＜ジャム作り体験＞	平成18年5月13日	24名	小学生とその保護者
NO.2	日本のパンのおいしさを求めて	平成18年6月3日	24名	18歳以上の方
NO.3	カウンセリング入門Ⅳ	平成18年6月10日	50名	18歳以上の方
NO.4	食べ物のおいしさ＜あなたの味覚は大丈夫？＞	平成18年7月1日	50名	18歳以上の方
NO.5	日本のパンのおいしさを求めて	平成18年10月21日	24名	18歳以上の方

大学レギュラー講座

講座番号	講座名・テーマ	実施日（全て土曜日）	定員	対象
NO.6	心理学者からみた栄養士のためのカウンセリング入門 (この講座は本校学生と一緒に受講していただく予定です)	平成18年10月7日	30名	(管理) 栄養士の方、 又は栄養学を 学んでいる方
		平成18年10月28日		
		平成19年1月27日		

専門学校1日講座

講座番号	講座名・テーマ	実施日（全て土曜日）	定員	対象
NO.7	寒い冬を乗り切れ＜うまい・早い・辛い。エスニック料理＞	平成18年12月2日	32名	20歳以上の方
NO.8	中国料理＜薬膳料理 Part II＞	平成18年12月16日	32名	20歳以上の方

専門学校レギュラー講座

講座番号	講座名・テーマ	実施日（全て土曜日）	定員	対象
NO.9	一初級編 その1ー 各料理の基本調理操作を学ぶ	平成18年6月24日	20名	20歳以上の方
		7月8日		
		7月22日		
NO.10	一初級編 その2ー 調味料と食材の扱い方	平成18年9月16日	20名	20歳以上の方
		9月30日		
		10月14日		
NO.11	一初級編 その3ー 既製品の上手な利用方法	平成19年1月13日	20名	20歳以上の方
		1月20日		
		2月3日		

事務組織の改革

本年4月事務機構を改革し、広報課を発展的に解消し、事務局から分離して、入試広報業務を各学校部門に組み入れ、大学は事務部で広報業務を行うことにした。

大学事務部の二つの課のうち「学務課」の名称と業務は変更せず、「生活指導課」を本学の大学設置構想にもある「学生支援センター」（以下センターという。）に改組し、業務については、入学前から在学、卒業まで学生の総合支援を行うこととし、業務内容別にグループ化して、従来の「学生生活指導関係」「就職関係」のほか「入試広報関係」を加えた三つの業務を総合的に処理するようにする。

事務部長の下、センターはチーフ・マネージャーが統括する。チーフ・マネージャーを補佐し、三業務（グループ）の担当責任者としてグループリーダーも兼ねたサブ・マネージャーを配置することとする。

このことにより、センター職員の全てが業務全般に精通し、対応できるようにする。同時に事務部職員間相互の連携、協力体制をより緊密にして一体化し、一層の活性化を図り、さらには学生募集活動の実効が上がるように企図するものである。

これに伴い、専門学校平澤校長の事務長兼務を解いたほか、職員の異動（配置換え）は次のとおり行った。

平成 18 年 4 月 1 日付（以下敬称略）

- 曾我 俊男 学務課長（生活指導課長）
 奥 信三郎 学生支援センターチーフマネージャー
 <事務部次長待遇>（学務課長）
 多田 功 学生支援センターサブマネージャー
 入試広報グループリーダー（広報課長補佐）
 金子 俊也 学生支援センターサブマネージャー
 就職兼生活指導関係グループリーダー
 （生活指導課長補佐）
 野村 恵子 学生支援センター入試広報グループ担当
 （広報課員）
 中島 ふみ 学生支援センター生活指導兼就職関係グループ担当（生活指導課員）
 鈴木 和男 総務課長補佐（専門学校事務長補佐）
 斉藤 哲男 聖徳調理師専門学校事務長（広報課長）
 山口 智史 専門学校事務室（広報課員）
 中尾 祥子 幼稚園（大学教務職員）

人事異動

採用 平成 18 年 4 月 1 日付

教員

井筒 雅（いづつ ただし）

昭和 43 年 北海道大学理学部卒 博士（工学）

雪印乳業株式会社技術研究所長を経て本学教授。

植松 節子（うえまつ せつこ）

平成 17 年 筑波大学大学院体育研究科修士課程修了

聖徳栄養短期大学卒業後、日本医科大学附属病院

嬉泉病院 各栄養科勤務を経て本学専任講師。

退職 平成 18 年 3 月 31 日付

教員

大学 富岡 孝（助教授） 富和美智子（専任講師）

福島 恭子（助手）

短大 神嶋勇喜雄（専任講師）

金井 節子（助手） 桜井 昌子（助手）

職員

大澤 逸男（財務課係長） 小芝 裕子（総務課係長）

田中カスミ（保健室） 石田富美江（体育館）

（敬称略）

訃報



末岡 基義

元短期大学教授。去る平成 18 年 1 月 2 日逝去されました。先生は短大非常勤講師の後教授として、昭和 63 年にご退職されるまで計 5 年間一般教養「生物学」をご担当されました。享年 86 歳。



笠原 秀夫

元短期大学教授。去る平成 18 年 2 月 19 日逝去されました。先生はビール酵母の研究に造詣が深く、短期大学教授として「栄養学」をご担当、昭和 50 年から 8 年間学生の教育指導にあたられました。享年 93 歳。



小畑 八寿世

元短期大学助教授。平成 18 年 3 月 25 日逝去されました。先生は昭和 41 年から 14 年間の長きにわたり「調理学」の理論と実習をご担当され、調理実習部（学友会）研究活動にも力を尽くされました。享年 96 歳。

お三方のご冥福を謹んでお祈りいたします。（敬称略）

教育研究施設設備整備拡充資金の募集について

本学は、約50年に亘って「食」に関する教育研究活動を展開し、建学の精神と教育理念に基づいて、栄養、健康など食生活の分野において社会に貢献する多くの人材を送り出してきました。

しかし、社会の変遷とともに生活様式が変化し、食生活が多様化することによって、健康に及ぼす影響が社会問題として取り上げられ、平成17年7月には、「食育基本法」が制定され、「食」に関する重要性は一段と高まり、社会問題となってきました。

こうした社会問題に対応するためには、高度な専門知識と技術を修得した人材が要求されますが、本学では社会的要望に応えられる人材を育成するため、教育研究条件の整備高度化に取り組んでいます。

しかしながら、昨今の私学を取り巻く客観情勢は、少子化の影響や補助金の抑制などにより、一段と厳しさが増してきており、私学財政は新たな対応に迫られています。もとより、本学園といたしましても健全財政基盤の確立のために最善を尽くしていく所存ではありますが、社会の期待に応じていくためには、一層の施設設備の改善充実を図っていく必要があります。しかし、これらに充当する財源は、学生納付金や国庫補助金にはあまり期待はかけられず、財源の相当部分は大学関係者ならびに社会一般からの寄附金に頼らざるを得ないのが実情です。何卒事情ご賢察のうえ募金にご協力くださいますようお願い申し上げます。

募金要項

- 目的：教育研究施設設備整備拡充資金に充当するため。
- 募金目標額：1千万円
- 寄付金額：1口 5万円
(なるべく2口以上を希望します)
- 募集期間：平成18年12月20日まで
- 申込・振込方法：学園所定の振込用紙をご利用ください。
- お問い合わせ：学校法人オリムピア学園
財務課募金係 TEL 03-3692-0211

◎この募金は税法上所得税の寄附金控除の対象となります。(ただし18年度入学生については、税法上「学校の入学に係わる寄附金」とみなされ、寄附金控除の対象となりません。)

詳細については募金係にお問い合わせください。

平成17年度入学者寄附募金の実績報告

平成17年度入学者のうち、募金に応募して下さった保護者は31名で、寄附金額は280万円でした。募金の趣旨に基づいて有意義に活用させていただきます。

巻田本学園理事に叙勲

春の叙勲が平成18年4月29日付で発表され、本学園 巻田泰治理事が瑞宝小綬章を受章されました。

これは先生の長年にわたる教育、研究等へのご功績に対し叙勲の栄に浴されたもので、謹んでお慶び申し上げます。

先生は、東京理科大学名誉教授で、本学の前身の聖徳栄養短期大学非常勤講師としても学生の教育にあたられ、平成5年2月からは本学園理事としてご尽力いただいております。

学友会活動について

会長挨拶



学友会会長 2NB 堀内 紗友里

この度、学友会会長に就任した堀内紗友里です。御存知のように、昨年度、聖徳栄養短期大学学友会が終了し、東京聖栄大学学友会が新たに発足いたし

ました。短期大学時代の良き伝統を受け継ぎながら、四年制大学学友会として新しい活動を展開して行くことを期しています。本年度の活動目標は、大学祭を始めとする行事を成功させることと、他大学との交流をはかることです。大学での学生生活がより充実したものとなるよう学友会役員一同頑張っ参りますので、学友会員のご支援ご協力の程をお願い申し上げます。

学友会発足総会・新入生歓迎会

4月20日、「平成18年度学友会発足総会」が開催され、東京聖栄大学学友会の設立、学友会暫定会則及び新役員を選出等について承認され学友会活動がスタートした。また、顧問制度の設置により、舛重学部長が学友会顧問に就任された。

引き続き行われた、「新入生歓迎会」では、本学専任講師の長須正明先生による、『日常生活から考える将来設計』と題したユーモア溢れる特別講演が行われ、新入生にエールが送られました。その後、校章・校歌の紹介の後、部・同好会の説明と部員勧誘が行われた。



第1回 体育祭

学生からの強い要望により実現した学友会主催による体育祭が5月30日に本学第1グラウンドで盛大に実施された。クラス対抗の競技は大いに盛り上がり、学生の親睦が図られた。学長より寄贈された栄えある「学長杯トロフィー」は接戦の末に総合優勝した2FAクラスが勝ち取った。



期待される東京聖栄大学

聖栄会会長 荻野 薫子

今年は、聖徳栄養短期大学最終学年（第42期生）282名の皆様が有終の美を飾ってご卒業され、聖栄会（同窓会）にお迎えすることが出来ましたことを心よりお喜び申し上げます。全聖栄会会員は、14,872名になりました。若い力の入会によって、益々の会の発展が期待されております。

東京聖栄大学が開学され、早1年余になります。今年4月に第2期生の入学式が執り行われました。大学がさらに発展してまいりますことを心よりお祈り申し

上げます。

これからの時代、大学を卒業して食にかかわる皆様の肩には、大いなる期待がよせられております。4年間、心して学問に励まれ、また青春を謳歌して下さい。今年の聖栄会総会は学内で行います。引き継がれた大学祭には、些少ながらの支援を準備致しておりますので御期待下さい。

東京聖栄大学のご発展を心より祈念申し上げます。

大学祭

昨年11月12日・13日の二日間、短期大学との二校合同による大学祭が開催された。四大生は短大生とともに、クラス参加の企画、部・同好会の研究発表や模擬店などにそれぞれ参加した。



学友会運営行事では、毎年恒例の学友会レストラン、地元の小学生を対象としたサンデークッキング等が行われ、朝市では地元と密着した企画として「葛飾元気野菜」の販売を行い好評であった。最初で最後の合同大学祭は、学生のみならず多くの家族連れや近隣住民の方で賑わった。

なお、今年は11月11日(土)、12日(日)に第1回東京聖栄大学大学祭が開催され、盛り沢山の企画を予定しておりますので是非ご来校ください。

部・同好会について

学友会には、現在公認された、16の部・同好会があり学術・文化・スポーツの各分野で活発な課外活動が行われている。その内、5つの同好会は、大学が開学した昨年4月以降に新規に設立されたものである。昨年に新規設立された中で、「机の上の勉強だけでなく、農業を実践してみよう」の趣旨で設立された『あぐり』は、地元の農家を訪問したり、自然農法を体験する合宿をしたり積極的な活動が読売新聞に取り上げられ話題となった。



読売新聞 2005.10.15 朝刊掲載

<部・同好会一覧>

部名	学生代表	同好会名	学生代表
食品加工研究部	2NA 後藤 恵理子	ダンス同好会	2NB 安藤 閑香
食品化学研究部	2FA 山本 奈々	バドミントン同好会	2FA 庄司 ゆり子
調理実習部	2NB 齋田 昌子	軽音楽同好会	2FA 萩原 稔
硬式テニス部	2FA 中嶋 祐果	あぐり	2NB 松原 久恵
合気道部	2NB 宮地 康平	栄養学研究会	2FA 山口 大樹
バレーボール部	2NB 荒木 理絵	ソフトテニス同好会	2NB 細田 奈央
バスケットボール部	2NA 阿保 春奈	フットサル同好会	2NA 吉田 裕志
華道部	2NB 渡辺 美由貴	野球同好会	2FA 嶋中 健太

聖徳栄養短期大学卒業式について

平成17年度卒業式及び専攻科修了証書授与式は、去る平成18年3月20日、わたなべ記念館において挙



行された。当日は天候にも恵まれ、卒業生達の巣立ちを祝福しているかのようであった。この日新しい門出を迎えたのは、食物栄養学科282名(食物栄養専攻245

名、食品科学専攻37名)と専攻科修了生8名の合わせて290名であった。式は学位記及び修了証書授与で始まり、学長賞(最優秀賞)の受賞、優秀賞41名の受賞と続いた。その他わたなべ奨学奨励基金特別表彰を始め、各賞の受賞も行われた。福澤美喜男学長は式辞の中で「信用は無形の財産である」という言葉をはなむけとされた。その後平澤勝栄顧問(衆議院議員)、齋田浩三後援会会長のご祝辞をいただき、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞と続き、最後に校歌と蛍の光を斉唱して式は終了した。この卒業式をもって聖徳栄養短期大学は四十三年の歴史に幕を下ろした。

東京聖栄大学附属 わたなべ幼稚園だより

園長 萩原 和代

5月に入り新入園のお子さんも元気に園庭で遊ぶ姿が見られるようになりました。

昨年、園庭脇の小さな菜園に、トマトやピーマンを苗植して育て、給食に供して楽しみました。今年もトマトやインゲン、大根、キュウリなど昨年以上に野菜の生長に関心に向け、食育を体現させていきたいと思っています。また、4月には給食室の見学をして、食事への関心を深めました。大きな釜やシャモジにビックリ。家庭の何十倍ものシャモジに興味を示したようでどうやって使うのか栄養士に質問をしていました。

幼稚園では子育て支援の一環と



して以前より預かり保育を実施しております。幼稚園始業前後、仕事や用事のある保護者の方々の為に、早朝7時30分から、夕方6時30分まで預かり保育を開き、保護者のご要望に応じております。クラスの保育室とは違う幼児教室「こどものあそぶおしろ」を使い、家庭的な雰囲気の中で預かり保育を実施しております。通常16名ほどがご利用となっておりますが、近隣の小学校の授業参観等の折には、倍近いお子さんになります。



また、今年から定員増をはかり満3才保育にも取り込んでおります。満3才からの入園が出来、年少組と一緒に保育しておりますが、当初の心配をよそに、入園なさったおさんは元気に幼稚園生活を楽しんでおります。これからも子育て支援や近隣に開かれた幼稚園として励んでいきたいと思っています。

学生募集要項

【管理栄養学科】

入試区分	募集人員	選抜方法	試験教科・科目、出願資格等	試験日	
推薦入試	公募	20	書類審査、面接、適性テスト	学校長推薦書、1浪まで、第1志望、評定平均値3.5以上	11月5日(日)
一般入試	第Ⅰ期	48	学力試験・調査書	国・英⇒必、数・生・化⇒選択1	2月2日(金)
	第Ⅱ期	8	学力試験・調査書	国・英⇒必、数・生・化⇒選択1	2月23日(金)
大学入試センター試験 利用入試	4	センター試験成績	国・英⇒必、数・生・化⇒選択1 (※本学による個別学力検査は課さない)	1月20日(土) 1月21日(日)	

【食品学科】

入試区分	募集人員	選抜方法	試験教科・科目、出願資格等	試験日	
AO入試	8	事前相談、エントリーシート、第1次選考、第2次選考	模擬授業受講感想文、課題、面接、1浪まで、第1志望	第1次 9月16日(土) 第2次 9月30日(土)	
推薦入試	公募	24	書類審査、面接、適性テスト	学校長推薦書、1浪まで、第1志望、評定平均値3.5以上	11月5日(日)
	特別推薦 (専門高校・総合学科)	4	書類審査、面接、適性テスト	学校長推薦書、1浪まで、第1志望、評定平均値3.5以上	
自己推薦入試	公募	4	書類審査、小論文、面接	自己推薦書、1浪まで、第1志望	12月17日(日)
一般入試	第Ⅰ期	24	学力試験・調査書	国・英⇒必、数・生・化⇒選択1	2月2日(金)
	第Ⅱ期	8	学力試験・調査書	国・英⇒必、数・生・化⇒選択1	2月23日(金)
	第Ⅲ期	4	小論文・面接・書類審査		3月9日(金)
大学入試センター試験 利用入試	4	センター試験成績	国・英⇒必、数・生・化⇒選択1 (※本学による個別学力検査は課さない)	1月20日(土) 1月21日(日)	

オープンキャンパス

7/22 (土) **7/29 (土)** **8/25 (金)** **8/26 (土)** **10/14 (土)**

■開催時間：各回とも 13:00～16:00

■参加方法：要予約

■主な内容：体験講座（管理栄養学科、食品学科）、平成19年度入試案内、キャンパス見学、個別相談（学科、入試、就職、学生寮等）、在学生との自由懇談などを予定。

<お問い合わせ>

学生支援センター入試相談室

〒124-8530 東京都葛飾区西新小岩 1-4-6

TEL: 03-3692-0211 (代) TEL: 03-3692-0238 (入試相談室 直通)

URL <http://www.tsc-05.ac.jp/> E-mail kouhouka@tsc-05.ac.jp